

改訂版刊行にあたって

● 本書の成り立ち

本書を手にとっていただいているみなさんは、これからICLSコースの指導にかかわろうと思っている方や、すでにICLSコースで指導にあたっている方、もしくは指導者養成に携わっていただいている方だと思います。みなさんの力で日本中でICLSコースが開催され、多くの修了者が生まれています。みなさんのご協力に感謝いたします。

本書はICLSコースでの指導の一助となるように作成されたテキストで、初版は2011年に刊行されました。日本救急医学会では2003年からICLSコース（当時はACLS基礎コースと名付けられていました）およびICLS指導者養成ワークショップを開催してきました。当時はシミュレーショントレーニングという学習機会はまだ広くは知られておらず、その指導者を養成するためのファシリテーターも限られていました。翌2004年からはICLS指導者養成ワークショップの認定も始まりましたが、各地で開かれるワークショップの内容・形式は統一されたものではなく、開催回数も限られたものでした。数年後にシミュレーショントレーニングという学習形式が広まり、指導者を養成するファシリテーターも増えてきたことから、ICLS認定インストラクターになるためには日本救急医学会が認定する指導者養成ワークショップを受講することが望ましいとされ、ワークショップの内容、理論的背景、インストラクターとして成長するためのツール、ICLSコース開催時に役立つツールなどを盛り込んで、本書の初版が刊行されるに至りました。

● ICLS指導者養成ワークショップの広がり

その後ICLS指導者養成ワークショップの開催が増えてきたことを受け、今後新しくインストラクターをめざす人は、日本救急医学会認定の指導者養成ワークショップを受講することが必須となり、本書も改訂されることとなりました。第1回の指導者養成ワークショップから19年、本書の初版刊行から11年が経ちますが、ワークショップ内で学ぶことは大きくは変わりません。ファシリテーションとは、振り返りとは、コーチングとは、ということを学びつつ、それをICLSコースのスキルステーション、シナリオステーションに活かすことができるようにワークショップは設計されています。本書ではそれらの内容を解説してワークショップのテキストとして使うことも想定しつつ、単なるワークショップでのテキストで終わるのではなく、指導者として成長していく段階でも常に役立つように編集しました。本書では標準的な指導者養成ワークショップのプログラムを掲載していますが、これは基本的なプログラムであ

り、地域ごとに従来行われていた内容を付加することも可能です。また、一部地域で行われてきた指導者ワークショップ、すなわち、すでにICLS認定インストラクター資格を持って活躍しているインストラクターが集まり、今一度指導方法や指導内容を振り返るためのワークショップも開催が広がれば、と思っています。指導者養成の場面だけではなく、指導者としての成長のためにも、本書を活用していただければ幸いです。

● ワークショップの構造と役割

なお、ICLS指導者養成ワークショップでは、受講する人のことを「参加者」と呼び、指導する側の人のことを「ファシリテーター」と呼んでいます。これはワークショップのなかでシナリオロールプレイを行うときに、「ICLSコースの受講者役」、「ICLSコースの指導者役」を演じてもらうことがあるためです。「参加者」「ファシリテーター」という呼び方と、ロールプレイの中で「受講者役」「指導者役」を演じるという構造に慣れておいてください。

● 各地のツールを共有し、さらなる広がりを

本書ではICLSコース開催に役立つツールも資料として掲載しています。しかし各地ではさまざまなツールが開発されてきており、日々それらは更新されたり新たに開発されたりしています。これまでご提供いただいた各地のツールは本書の作成にも大いに役立てています。資料をご提供いただいたみなさんに感謝します。最新のツールや全国に紹介したいツールは、随時資料に追加し、日本全国で共有できるようにしたいと思っています。ご提供いただけるツールがあれば、ぜひ当該地域の地区担当委員までご連絡ください（https://www.icls-web.com/about/icls_list.html）！

日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会
ICLSコース教材開発ワーキンググループ

本書の願い (初版より)

● ICLS コースと指導者養成ワークショップの誕生！！

2004年の臨床研修の必修化をめざして、2002年より日本救急医学会では、臨床研修医に求められるライフサポートの基本的能力を身につけるコースを構築してきました。こうしたコースとしては、AHA (American Heart Association) のACLS (Advanced Cardiovascular Life Support) コースが有名です。しかし、AHAのACLSは、すべての研修医に修得してもらうには荷が重く、内容的にも循環管理に特化しすぎているのではないかと考えられたのです。そこで、従来より、わが国のなかで1日コースとして構築されてきた二次救命処置のためのコースを基礎コースとし、より蘇生に特化した形で構築したのが**ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コース**です。ICLSコースという名称は2004年から用いましたが、委員会ではその前からこのコースを標準化するとともに、当初はコースを自ら主催し、同時に指導者養成ワークショップを開催して指導者養成を行ってきました。第1回のICLSコースは2002年10月10日に、第30回日本救急医学会総会・学術集会期間中に札幌で開催しました。また、第1回**指導者養成ワークショップ**は、2003年4月13日に、大阪大学で開催しました。このコースの参加者から、多くの指導者が生まれて、各地で指導的な役割を果たしています。ICLSコースが普及した背景には、登録認定システムが整備されたことと、コースガイドブックが出版されたことが大きく寄与しています。指導者養成ワークショップの登録認定システムも整備されましたが、指導者養成ガイドブックについては出版が遅れました。本書は、その意味で、ICLS指導者の育成に大きな役割を果たすことが期待されます。

● 本書がめざすもの

本書が何をめざしたらよいか、編集会議で、熱く議論されました。ICLSコースで教え合い、学び合うためのワークショップは、各地で、さまざまなニーズに応じて、草の根的に開催されています。そのなかには、さまざまな工夫がこめられてきました。本書は、こうした草の根的に育ってきたものをリセットして、ワークショップの形態を規定する意図で作成されたものではありません。むしろ、ICLSが広く普及して育ってきた、**学習者中心の考え方**や、**チーム蘇生**につながる学びの場の考え方を整理して明確にし、より力強い展開を促したいという願いのもとで作成されたものです。そこで**各地のワークショップの資料**を提供していただき、きらりと光る内容を探し、中に盛り込むことに腐心しました。また、最新の学習科学の考え方

と、ワークショップで培ってきた内容がどのように整合するかも本書の重要な目玉です。したがって、本書は、項目に沿って逐次教えればICLSコースのインストラクションができる文字通りのマニュアルや、絵に描いたようなスーパーインストラクションを提示するようなものではありません。従来、培ってきたワークショップの内容を整理するとともに、教え学び合うとはどのようなことかを問いかけ、成長していく指導者の糧になることをめざしています。また、そのようなワークショップを運営するノウハウもまとめました。本書が、**単なるマニュアルではなく**、とどまることなく歩み続け、楽しみながら開拓をしていく水準の高い指導者をめざす皆さんの、血となり肉となることを、あるいはビタミンとなることをめざしています。

● ワークショップの位置づけ

指導者養成ワークショップは、インストラクターコースそのものではありません。ICLSコースのインストラクターを何回か経験すれば、インストラクターとしては、慣れてきて安定した指導ができるようになるものです。このような安定した、あるいは手はずの整った指導が早くできるようにすることが必ずしも理想の姿ではありません。そこが、指導者養成ワークショップと命名した由縁であり、単なるインストラクターコースではないという意図があります。したがって、ワークショップを通じて、ワークショップ参加者が何らかの新しい概念に触れて、ICLSコースに携わる者として、新たな姿勢や考え方を得ることが重要です。指導者養成ワークショップでは、こうした概念的な要素を盛り込むことが求められています。そのような意味で、本書は、もちろん**ワークショップの手引き**ともなるものです。例えば、概念的な要素は、用語にもこめられています。やさしい言葉遣いの用語でも、概念的な意味合いがこめられていて、とてもすっきりとした理解や、意味深なヒントを見出すことも稀ではありません。ワークショップとは、そのようなヒントや導きをもたらす場であるというのが、編集者たちが共有しているワークショップの位置づけです。

日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会
ICLS 指導者ガイドブック編集委員会